＜先週の説教から＞

『新年礼拝・ヘブライ㊱ー魂 の 故 郷』

武田真治牧師

創世記 ２３：１～９　ヘブライ書 １１：１３～１６

クリスマス礼拝もそうでしたが、新年の礼拝でも、いつもと同じようにヘブライ書を連けますが、不思議なことにまさに新年にふさわしい聖書箇所なのです。即ち「この人たちは皆、信仰を抱いて死にました。約束されたものを手に入れませんでしたが、はるかにそれを見て喜びの声をあげ、自分たちが地上ではよそ者であり、仮住まいの者であることを公に言い表した」です。どこが新年にふさわしいのか？　それはまさにこの言葉が私たちキリスト者のこの世での“生き方の原点”を教えているからであり、年の初めにその原点を確認できるからです。それは《地上は仮住まい》という点です。

言い方を変えれば、この後の節に「彼らは更にまさった故郷、すなわち天の故郷を熱望していた」とあるように、私たちの故郷＝祖国は“天にある”からです。その天の故郷でこそ真の安らぎと平安が待っているのです。故に、その天の故郷を目指して、この地上では仮住まいの者＝旅人として生きるのだと。即ち、この地上の物や事柄はいずれ過ぎ去るものに過ぎず、必要以上に固執したり、自らを埋没させることなく生きて行けるのだと。そのような信仰の先駆者たちがアブラハムやイサクやヤコブたちであったと。この点で、旧約聖書の人物たちにも大いに学ぶべき所があるのではないかと教えてくれているのです。なるほどと思います。

ただ、その上でもう一つの疑問も湧いてきます。というのは、あまりにも天の故郷にのみ希望を託すならば、今の現実の生活がおろそかになりはしないだろうか、この世での生活はどうでもいいということに陥らないかと。確かにそういう危惧は分かります。実は最もその信仰で褒められ、理想とされているアブラハムでも実際の生き方ではこの世の在り様に沿って生きている場面もあったのです。それが今日読んで頂いた創世記23章なのです。

ここはずっと連れ添って来た妻サラが亡くなった場面です。その妻を葬るために「墓地」を地元民から購入したという話なのですが、これまでのアブラハムの生き方では、生涯を旅人として生きる、即ち、定住することを避け、そのために固定した財産を持たずに生きて来たのです。にもかかわらず、ここでは墓地とは言え、かなり多額のお金で木の生えている場所も含む広い土地を購入しているのです。これまでの彼の生き方、主義主張に反する行為ではないでしょうか？

そうだと認めた方が正しいと思います。ただ、今迄の生き方を変更しても、妻サラの遺体を葬る場所を求めたのです。それこそがサラへの愛であり、感謝であったのではないでしょうか。せめてねんごろに葬ってあげたいと。これは神様も許された行動だったと私は思います。そして後に彼自身も死んだ後この墓に葬られます。地上を旅する者であっても、家族や自分のため、この地上で生きるために支えとなる場所や財産をアブラハムでさえ持ったことは事実なのです。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．１月 11 日（水）20：00
Ⅱ．１月 12 日（木）10：30

聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　ハンナの会を覚えて
担 当 者：　（水）歌　　（木）曾我
祈りに覚える人：　飯田さん　　伊藤さん
ハンナの会　1月10日（火）10：30～

【教勢報告】

主日礼拝　　男　23　　女　49　　計　72
祈祷会　Ⅰ．男5　女3　　計8　　Ⅱ．男2　女9　　計11
日曜学校　幼稚科　0　小中科　4　計　4

【次週主日礼拝】　　１月　１５日（日）

聖　書：　創世記　２８：１～５
ヘブライ人への手紙　１１：２０～２２

説　教：　「ヘブライ㊳―信仰の継承とは？」
武田 真治 牧 師

讃美歌：　３６８(1)、３２(1)、２８０(1と2)、
４５３(1～3)、２４

【次週当番表】

司式:羽倉長老　奏楽:勝村 礼拝:金刺長老
献金：阿部　阿部　　受付：飯島　吉岡
会堂準備：小杉 冨澤 長田 橋本　北條
看板：曾我　　週報：吉岡　　お花：羽倉

【次週集会予定】礼拝前：・求道者会　・聖書輪読会
礼拝後：・オリブの葉編集委員会　日曜学校教師会
幼稚園理事会　教会ミニセール

週　報

2022 年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２３年　　１月　８日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**

牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/